

三田市内で2例目となるヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* Thw. の発見

上中 一雄

The discovery of the second specimen of *Burmannia championii* Thw.
in Sanda City, Hyogo Prefecture, Japan

Kazuo UENAKA

はじめに

2014年9月8日、三田市内の里山でヒナノシャクジョウ科 (Burmanniaceae) に属する葉緑素を持たない腐生植物のヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* Thw. とされる花を見つけて写真に撮った。兵庫県立人と自然の博物館の高橋 晃先生に見ていただき、「間違いなくヒナノシャクジョウである。花は咲き終わってはいるが、写真がきれいに撮れているのでヒナノシャクジョウであることがよくわかる。希少植物であり、詳しく報告する価値があると思われる」との助言をいただいた。

翌日、さらに周辺を詳細に調査した結果、合計11株生育しているのを確認し、1株当たりの花数や花の大きさ、地面からの花茎の長さなどを記録した。

また、9月12日には高橋先生と再度現地を訪ねて2株を証拠標本として採集した。標本は県立人と自然の博物館に収めた。

ヒナノシャクジョウは兵庫県レッドデータブックでBランクに指定され、これまで県内では播磨、摂津、淡路の数か所で見つかっている (兵庫県 2010)。最近、三田市内から初めて標本が採集されており (高橋 晃 2011)、今回が2例目となる。

生育地や植物体の様子などの詳細については、兵庫県植物誌研究会会報に掲載している (上中・高橋 2014)。

発見に至るまでの経緯

ヒナノシャクジョウについて知ったのは、2004年の夏に当時勤務していた高校の教員が、加東市東条町の母親の実家の裏山で珍しい花が咲いていたと携来電話のカメラ画像を見せてくれたのが最初であった。どのようなところに咲いていたのか、どれくらいの大

きさの花かなど一切聞かないで、次の夏に咲いたら私も写真に撮りたいからぜひ教えてほしいといったまま実現せずに今日に至っていた。ただ、毎年花の写真を使って暑中見舞いの葉書を印刷する頃になると彼女と交わしたその時の会話が思い出されて花の名前だけはなぜか強く印象に残っていた。

2013年3月に完全リタイアして、週に2日ほどのペースで野菜作りや草刈りなどに三田市内の実家に帰るかたわら自宅裏の里山を1、2時間散策するようになった。発見した日もツルリンドウの花やキノコの写真を撮りながらスギとヒノキの混植林の中を歩いていた。

林内には幾列もシイタケ栽培のほだ木が山形に組まれて立てかけてあった (図1)。谷筋に最も近いほだ木の列の近くで赤い小さなキノコをみつけたのでかがみ込んでカメラを向けようとした。その目と鼻の先に小さな白い星形のようなものが目にとまった (図2)。何気なくつまみ上げようとしたがしっかりと地面にくっついていてのかつまみ上げられなかった。根がついているらしいことに気づくと同時にこれがかつて写真で見たヒナノシャクジョウだと直感した。

花の形態等

花は、長さ約5mm、花の付け根の直径約2mm、1株の花数は4個から15個で平均7.4個であり、いずれの株も地面にくっつくように花をつけていた (図3)。

花茎は、直径約2mm、地面の上に出ている部分の長さは最大で5mm、平均1.6mmであった。ところが標本にするために植物体を掘り起こしたところ、花茎の長さは30mmと50mmと思いのほか長く (図4)、掘り起こす前に見ていたのと大きく違って驚いた。他の株も地中に隠れている部分の方が地表に出ている部分よりもはるかに長いことが推測できる。なお、図4の右側の株は、地中にあって花をつけていない株と推測さ



図1 ヒナノシャクジョウの生育環境



図2 ヒナノシャクジョウの生育状況



図3 ヒナノシャクジョウ（ビニ帯の幅は約4mm）



図4 掘り起こしたヒナノシャクジョウ

れる。

おわりに

発見した翌日に訪ねた時には発見のきっかけになった赤い小さなキノコはすでに跡形もなく消失していた。このキノコの写真を撮るのを全く忘れてしまっていたが、一期一会の出会いに感謝。

兵庫県立人と自然の博物館の高橋 晃先生には多くのご助言をいただいたことに深く感謝します。

引用文献

- 兵庫県 2010. 兵庫の貴重な自然. 兵庫県版レッドデータブック2010（植物・植物群落）.（財）ひょうご環境創造協会.
- 高橋 晃. 2011. 兵庫県三田市の植物. 人と自然No.22 :101-146. 人と自然の博物館.
- 上中一雄・高橋 晃. 2014. 三田市内でヒナノシャクジョウを採集. 兵庫県植物誌研究会・会報No.101 :2-3.